

第3回長野市地域包括支援センター運営協議会
地域包括支援センターの活動報告

地域包括支援センター名 安茂里

地域の特色 (区域内の人口や市街地、山間地等)	安茂里地区 人口 19,774人 高齢化率 31.8% 長野市のベッドタウンとして戦後人口が急増し、当時転入された方々の高齢化が進み、公共交通機関での外出が困難になっている。	七二会地区 人口 1,306人 高齢化率 54.6% 中山間地。過疎・核家族化により独居や高齢者夫婦の世帯が多く、一人亡くなると世帯が一つ減少する現状がある。	小田切地区 人口 747人 高齢化率 58.6% 市内 32 地区で最も人口が少ない中山間地だが、地域のつながりは強く地域コミュニケーションは都市部より形成されている。
R5 年度の活動報告 ・総合相談件数 ・相談の困難ケース ・相談から見てきた地域の特色 ・最近多い相談内容、傾向 ・相談があった消費者被害と対応	総合相談件数 1,783 件 訪問件数 394 件 ・被害妄想があり関係機関からは入院、入所が望ましいと言われているが医療機関に繋がらない ・ゴミ屋敷、認知症、独居でキーパーソン不在 ・家族が自身の問題を抱えている ・8050 母親と息子の 2 人暮らし、共依存	総合相談件数 199 件 訪問件数 50件 ・高齢独居、認知症の進行から閉じこもりがちになる。ただ、民生委員活動やお茶のみサロン等の活動が活発で見守りの目はある印象 ・支援拒否の高齢独居 ・ネグレクト傾向の 8050 ・ガン末期で自宅退院 ・生活困窮で精神疾患のある方、医療に繋がっていない	総合相談件数 182件 訪問件数 48 件 ・畑仕事を夫婦でやってきたが ADL 低下によりできなくなると生活意欲も低下する ・訪問介護、配食弁当サービスが届かない ・入院していて在宅復帰に支援が入りづらい
R6年度12月末現在 ・総合相談件数 ・相談の困難ケース ・相談から見てきた地域の特色 ・最近多い相談内容、傾向 ・相談があった消費者被害と対応	総合相談件数 1,389 件 ・若年性認知症の相談が増えてきている印象(本人からと家族から) ・独居高齢者でサービス拒否。結果、安否確認で対応することに… ・生活困窮、セルフネグレクト ・ヤングケアラー ・外国人、移住者	総合相談件数 139 件 ・認知症で高齢独居 ・身寄りのない方の施設入所 ・未払い金があるという振り込み詐欺の消費者被害 ・民生委員からの相談数増加 ・認知症夫婦と知的障害の子の世帯	総合相談件数 124 件 ・ゴミ捨てに困っている世帯 ・対応できるサービス事業所が少ない ・宗教を信仰しているご家庭が多い印象で、その繋がりから買い物や病院受診等助け合っていることが多い ・高齢独居で冬を越せない ・空き巣被害が増えている

地域ケア会議について ・R5 年度のケア会議の回数と議題 ・ケア会議の出席者 ・会議の中でどのような意見が出たのか	15 回 ・借家住居からの退去 ・認知症の本人、介護に無関心の夫、精神疾患の娘の 3 人暮らし ・精神疾患のある方の支援について ・ヤングケアラー ・身寄りのない方の成年後見制度利用 ・生活困窮 ・ひきこもり ・『ゴミ出しから考える地域の支えあい』～何とかしたいをカタチにしたい～ 出席者：住民自治協議会、区長、民生委員児童委員、地区関連団体、支所、教育機関、あかね会、居宅介護支援事業所 出た意見：・地域内のコミュニケーションが不足していると感じた、地域の課題を知るにもそれを皆で共同で解決するためにも大勢の力が必要でコミュニケーションの場作りが急務かと感じた ・「認知症になっても地域で暮らし続ける」を支えるために～支援の輪を広げるための情報交換会～ 出席者：安茂里地区生活関連企業（金融機関、郵便局、スーパーマーケット、交通機関、コンビニエンスストア、ドラッグストア、市民新聞）安茂里地区教育関連機関、長野中央警察署、長野中央警察署安茂里交番、長	1 回 やさしい心と温かい手をつなぐ笑顔と元気の里「七二会」、七二会自慢大会 ・高齢化の進行、地域課題を我が事として考えよう 出席者：住民自治協議会、区長会、民生児童委員協議会、福祉推進員、サロン代表者、支所 出た意見：・男性の参加しやすい取り組み、若い方と交えた交流、きれることのない支援を活かしあう関係づくり	1 回 「小田切地区自慢大会」～小田切地区はここがすごい！～ ・地域の高齢化、コロナ禍があり、住民から「地域の集まりが少なくなってきた」という意見を受けた。 サロンを開催しても限られた人しか参加してもらえず、地域に埋もれていく方達が見え始めたことに危機感を感じている。 ・集いの場、機会づくりとして 地区にある資源を確認しよう 出席者：住民自治協議会、区長会、民生児童委員協議会、福祉推進員 和輪話の会、「お互助っ人」家事援助協力会員 長野市地域包括ケア推進課、支所、長野市西部保健センター 出た意見：若年層を巻き込んだ話し合いの場を考えたい、「昔のことを話し合い、それを取り戻すのか、新しい形の小田切を目指すのか」中心となる組織を形成していきたい
--	---	--	---

	野市西部保健センター、長野市役所地域包括ケア推進課、長野市役所生活支援課、長野市中部包括支援センター、居宅介護支援事業所 出た意見：・他の職業の方と意見交換することで違った目線での意見が聞けて、困りごとの違いについて「なるほど」と思うことが多かった		
地域ケア会議について ・R6年度12月末現在の回数と議題 ・ケア会議の出席者 ・会議の中でどのような意見が出たのか	13 回 ・ひきこもり＋認知症＋ガン末期、死亡事務と今後について ・認知症＋精神疾患 ・精神疾患を持つ家族 ・『暮らしやすい地域をかんがえよう』～ささえあいをカタチにしたい～ 出席者：住民自治協議会、区長会、民生委員児童委員協議会、福祉推進委員、教育関連機関、居宅介護支援事業所、長野市役所 出た意見： ・高齢化が徐々に進んでいるため、色々な地区の例を参考にしていきたい ・地域活動している中心の人々以外の世代、無関心な人たちの参加をより促していく方法などを検討していきたい ・この会を重ねていくことがいいのではと思う ・人脈作り、本気で取り組む必要性を感じた ・少人数で 30 代 40 代の父母等が集まる集会を開催	6 回 ・認知症高齢独居＋借金、成年後見制度について ・高齢夫婦を支援する精神疾患を持つ娘 ・『みんなでやろう！地域づくり』 出席者：支所、公民館、小学校、SaSaLAND、子どもプラザ、グループホーム かえで、住民自治協議会、区長会、民生児童委員協議会、福祉推進員、サロン代表者 出た意見：山間部で外に出ず、閉じこもりがちになると、だれの目も入らない可能性がある。もしもの時のための顔のつながりがあれば、支え合いにもつながる。地域おこしの活力を活性化していく。住民同士の結びつきを強くする関係作り。・「空き家が多い」「若い世代が出ていき不安」といった課題や「雲海がきれい」などの魅力が挙げた ・「合同菜園を開く」「地域公	3 回 ・地域でつながる会 『やってみてえなあをカタチにしたい』 集いの場、機会、きっかけ作り 出席者：住民自治協議会、区長会、民生児童委員協議会、福祉推進員 和輪話の会、「お互助っ人」家事援助協力会員 長野市地域包括ケア推進課、支所 出た意見：・地域でやりたい事業の企画案を作って発表した。 ・参加者は 8 グループに分かれて意見交換し、やりたい事業の目的や内容、会場、費用などを 1 枚の紙にまとめた。具体的には音楽会やログハウスのサウナ建設、地元の道祖神や神社を巡るプランなどが挙げた。 ・地元湧き出る鉱泉を使って五右衛門風呂を作る企画案をまとめたグループは「利用者は風呂を沸かす薪

	してほしい ・紙に書きだすことで先が見えてくる。グループ研修形式良かった ・「認知症になっても地域で暮らし続ける」を支えるために～第２弾～ 出席者：東日本旅客鉄道株式会社 長野支社、アルピコタクシー株式会社、ヤマト運輸(株)、ENEOS 安茂里給油所、渡辺商事株式会社、サカイエキスプレス、コープながの、八十二銀行安茂里支店、安茂里郵便局、小市郵便局、ながの農業協同組合、肉のたかの、酒のスーパータカぎ、カサイ薬局、あい長野クリニック、長野中央警察署安茂里交番、NPO 法人 翔和学園 長野翔和学園、長野市立安茂里小学校、長野市立松ヶ丘小学校、長野市立裾花中学校、長野市民新聞 民生児童委員、保健センター、長野市役所、居宅介護支援事業所 出た意見：普段の業務の中では関わることのない異業種の方々のお話や実体験をお聞きすることができ、新しい発見、新しい視点を持つことに繋がられた。大変有意義な会議であった。 ・グループの中に配送ドライバーの方がいて地域、個のお宅のことをよく把握していて驚いた。地域を支えている方がたくさんいて嬉し	民館に一泊 500 円で人を泊める」「雲海を見るためのロープーウェーを造る」などの案が出た。	として地域の不要な木を伐採して持参し、自力で沸かす」といった内容を提案した。
--	--	---	---

	くなった ・介護保険を利用することが第一選択と考えていたが、それ以前の仕組みや取り組み方がないのか？ということを考えていきたい。 ・安茂里地区のマップがあれば良いという意見があった。常にアンテナを張っている。気づくこと、自分がどんなことができるのか考えて過ごしていくことが大切だと思う		
地域包括支援センターの広報について R5 年度 R6 年度12月末現在まで ・どのような取り組みをしているか 実際の広報用紙またはチラシがあれば添付してください。	・民協定例会での事例検討参加や介護者教室等での広報	・民協定例会、お茶のみサロン等でのチラシ配布や出前講座開催	・民協定例会、介護者教室等を通して民生委員との意見交換会を開催

第3回長野市地域包括支援センター運営協議会
地域包括支援センターの活動報告

地域包括支援センター名 星のさと

地域の特色 (区域内の人口や市街地、 山間地等)	☆川中島 26933 人・高齢者 7,551 人・高齢化率 28.1%(R7.1.1 現在) ☆篠ノ井共和 3507 人・高齢者 1314 人・高齢化率 37.5%(R6.9.1 現在) ・川中島地区は犀川と千曲川に囲まれ、中津・御厨・川中島の 3 地区で構成されている。桃が特産品。桃の王様「川中島白桃」生誕の地である。 40～50 年前にできた新興住宅地が複数あり、一気に高齢化が進んでいる。徐々に若年層の住宅に建て替わっているが、世代間の交流は希薄。公営住宅は 3 ヶ所。公共交通機関は川中島駅と今井駅がある。路線バスと乗り合いタクシーが運行。比較的近隣に商業施設がある。 ・篠ノ井共和地区は平地と山間地に分かれており、りんごが特産品。共和園協の直売所には、県内外から来客がある。ただ、桃、りんご農家共に、高齢化が進み、後継者がおらず畑が減少している。公共交通機関は乗合タクシーが週2回運行。近隣に店舗がなく、生活には車が必要な地域である。3ヶ所、移動販売車停留所がある。
R5 年度の活動報告 ① 総合相談件数 ② 相談の困難ケース ③ 相談から見えてきた地域の特徴 ④ 最近多い相談内容、傾向 ⑤ 相談があった消費者被害と対応	① 総合相談件数 6,929件(延べ件数) 来所 200 電話 4678 訪問 1003 その他 1048 ② ・8050、9060 問題のケースで 50 と 60 代の方が支援機関に繋がらない。 ・同居家族に介護力がなく、権利だけを主張するケース ・同居していても親子が不仲で協力が得られないケース ・どこの介入もなく地域で孤立していたケース ・認知症による反社会的な言動があり、CM やサービス事業者が苦慮。 ・家族が急に出て行き、本人の生活が成り立たなくなったケース ③ ・川中島地区は 40～50 年前にできた新興住宅地で、一気に高齢化が進んでいる。一人暮らし、高齢者二人暮らしの相談が増えている。 ・共和地区は限界まで農業に従事し、相談につながった際は重度化している傾向がある。拡大家族、息子と高齢者の世帯が多い。 ④ ・免許返納に伴って、出掛けることができなくなる。 ・数か月から数年、入浴ができていない。 ・今後の生活が心配。施設について教えて欲しい。 ・心不全を抱えたケース ・感染症により入院し生活不活発となったケース ⑤ ・90 代女性 家に訪ねて来て上がりこみ、宝飾品はないかと聞いてきた。本人は足が悪くスムーズに動作できない。家中の引き出しを開けて回り、2 階まで上がり込み、お酒類など何品も持って行ってしまった。中部地域包括支援センターへ報告。

	・90 代夫婦 高額な布団を何度も購入している。認知症の夫が妻の言うままお金を下ろし、何度か被害にあった。家族介入もしたが、本人に自覚なくその後も被害あり。消費生活センターへつなげた。
R6年度12月末現在 ① 総合相談件数 ② 相談の困難ケース ③ 相談から見えてきた地域の特徴 ④ 最近多い相談内容、傾向 ⑤ 相談があった消費者被害と対応	① 総合相談件数 4,265件（延べ件数）来所 172 電話 3355 訪問 581 その他 157 ② ・身寄りがいない、また疎遠のため親族に協力が得られないケース ・ケアマネジャーも同様であるが、業務範囲外の仕事をせざるを得ないケース ・精神科から退院。年齢で仕分けられるが、高齢者施設には馴染まないケース ・本人、家族共に負債を抱え、困窮しているケース ・虐待に移行する恐れのあるケース ③ R5 年度と同様。 ④ ・未受診で認知症が疑われるケース ・老老介護、認知介護の高齢者世帯の相談 ・子ども達が遠方で、近隣には協力者がいないケース ・軽度の認知症があり、介護予防としてサービス利用を希望 ・退院に向け MSW や病棟からの相談 ⑤ ・40 代女性 塗装業の人が来て、「近所で塗装の作業をしている。塗装をした方がいい」と言われ、11 万円で契約した。母親の担当 CM が訪問した際に、娘からその話を聞き、その場でキャンセルの電話をした。消費生活センターへも電話した。
地域ケア会議について ・R5 年度のケア会議の回数と議題 ・ケア会議の出席者 ・会議の中でどのような意見が出たのか	・自立支援ケア会議 2回(4 ケース) 出席者：事例提供者・助言者【薬剤師・PT・OT・管理栄養士・歯科衛生士・地域福祉ワーカー・包括(看護師・保健師・社会福祉士・主任ケアマネ)】・見学者 ・個別ケア会議(困難) 8回 (10 ケース) ・地域ネットワーク会議 (篠ノ井共和 2回・川中島 1回) ①川中島地区「どうしたら一人暮らしのAさんが、住み慣れた地域で暮らし続けられるか？」 出席者：川中島地区民生委員・管内ケアマネジャー・包括 まとめ：別紙の通り ②共和地区「高齢になってゴミ出しが出来なくなったらどうしますか？」 ～ゴミ出しから地域のつながりを考えてみよう～ 出席者：地域委員長・区長会長・民生児童委員・地域福祉ワーカー・たすけあいコーディネーター・南部障害者相談支援センター・軽費老人ホーム・救護施設・分室高齢者担当・ケアマネジャー・包括 まとめ：別紙の通り
地域ケア会議について ・R6年度12月末現在の回数と議題 ・ケア会議の出席者 ・会議の中でどのような意	・自立支援ケア会議 1回(2 ケース) 出席者：R5 年度と同じ ・個別ケア会議(困難) 6回 (6 ケース) ・地域ネットワーク会議 2回 (篠ノ井共和 1回・川中島1回) ① 川中島地区「認知症にやさしい町 川中島」 出席者：本人ミーティングメンバー・若年性認知症コーディネーター・認知症パ

見が出たのか	ートナー・オレンジカフェスタッフ・寺カフェご住職・学習塾経営者・引きこもり支援・市民協働サポートセンター・学生・エコしん・民生児童委員・南部障害者相談支援センター・市・たすけあいコーディネーター・管内介護保険事業所・管内ケアマネジャー・包括 まとめ：別紙の通り ②共和地区「もっと知りたい地域のこと ～共和地区の社会資源に注目し共和マップを作ってみよう～」 出席者：地域委員長・区長会長・民生児童委員・福祉推進員・赤十字奉仕団・地域福祉ワーカー・たすけあいコーディネーター・障害者相談支援センター・救護施設・軽費老人ホーム・介護老人保健施設・ケアマネジャー・包括 まとめとして、「共和マップ」作成中
地域包括支援センターの広報について R5 年度 R6 年度12月末現在まで ・どのような取り組みをしているか 実際の広報用紙またはチラシがあれば添付してください。	・年1回、回覧にて包括の広報を行っている。 ・地域の身近な相談者である、民生委員、支所、住民自治協議会の福祉ワーカー、地域たすけあい事業のコーディネーター等との連携が図られている為、各所を通してつながる。 ・長野保健医療大学への講師派遣。包括の説明と包括における医療職の役割について講義を行った。 ・オレンジカフェや寺カフェに、必ず1名以上が参加している。

「どうしたら一人暮らしの A さんが 住み慣れた地域で暮らし続けられるか？」

全グループ

①民生児童委員の立場で心配だと思ったことをあげてみましょう

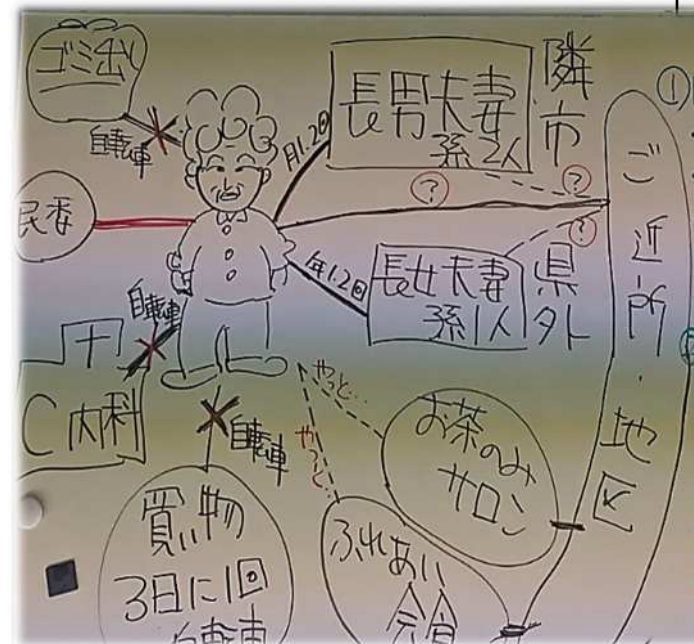
- ・通院に行けているのか
- ・自転車に乗れない
- ・ゴミ出しは？
- ・財産、お金の管理はどうしているか
- ・同じ話を繰り返すので認知症の始まりではないか
- ・離れた家族は状況を分かっているのか
- ・生活圏が狭くなっていないか
- ・ご飯が食べられているか
- ・調理、家事がどのくらいできているのか
- ・介護保険の利用はしないのか
- ・近所に協力者はいるか
- ・お子さん達は状況をわかっているのか この先どう考えているのか
- ・本人の気持ちは、本当はどうか

③心配なことに対して、それぞれの立場で出来そうなことを話し合ってみましょう

- ・たすけあい事業(買物、通院)を提案する
- ・見守り(地域、民生委員の声掛け 新聞・郵便物が溜まっていないか等)のネットワーク、おたすけ隊
- ・緊急通報システム
- ・条件が整えば、車に乗せられるが…
- ・隣の息子に相談(介護保険・リハビリ・金銭的支援)
- ・有償チケットで支援している
- ・民生委員から福祉台帳を見て息子に連絡
- ・民生委員で包括へ相談する→困り事への対応を一緒に考える
- ・介護保険のことについてよく分からない→「こんなことができるよ」と提案
- ・見かけたら声掛けをする
- ・家族がどの程度支援ができるか確認する
- ・家族が困っていたら相談窓口をお伝えする

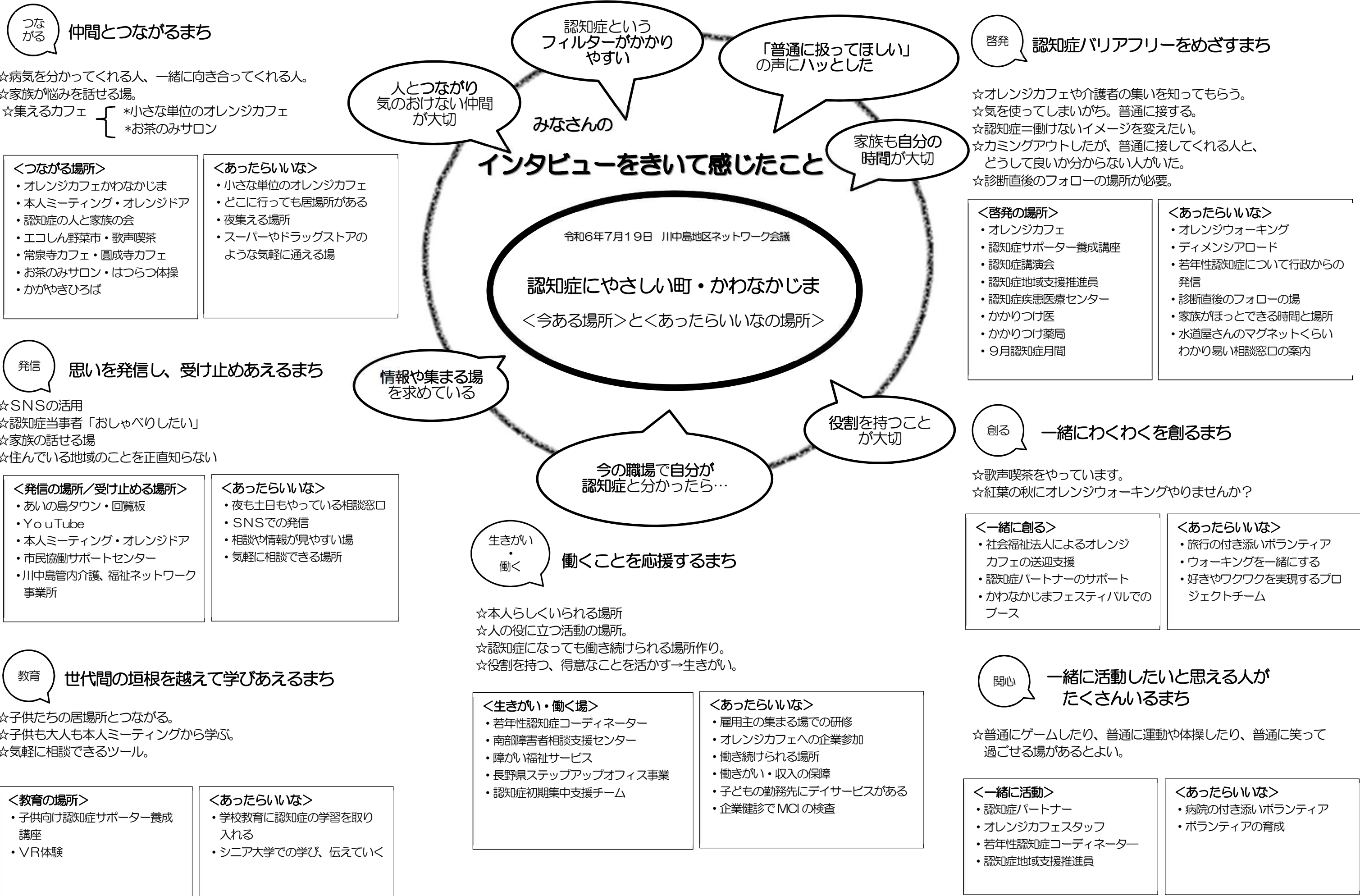
②ケアマネジャーの立場で心配だと思ったことを挙げてみましょう

- ・安否確認はどうか 孤立しているのか(閉じこもり)
- ・家族が協力してくれるのか
状況を理解しているのか
- ・特別な病気・既往歴はあるのか
- ・主治医はどこまで分かっているのか
- ・受診は出来ているか 薬は飲めているのか
- ・体調は？
- ・認知症は？
- ・ふれあい会食・お茶飲みサロンに
参加できているか
- ・アシスト自転車や電動カートの
利用はできるのか
- ・体力はどの程度か
今までの生活が取り戻せるのか
- ・子供さん達との関係性が心配



④ その他(質問・知りたいこと・発表したいこと等)

- ・民生委員として、どこまでやっていいのか
- ・実際、現実として、どこまでできているのか
- ・ふれあい会食 (認知症があると「行くよ」と言っても、近くになって忘れている)
近所の人と結び付けることが必要
→ 連れて行って下さる仲間をどうつくるか (例: チームオレンジ)
五月会・くりや会・やよい会 それぞれのルールある
→ 送迎は仲間同士はよいが、民生委員にはできない
- ・民生委員の訪問に理解を得られない(本人にも不信がられる)
- ・災害時に、近所・地域の方が支援してくだされば、Aさんも安心



●原因 現状分析

どうしてゴミ出しができなくなったのか

事例Ⅰ

80代の夫婦二人暮らし。子供さんは市内在住。
夫婦ともに足腰が弱くなり、外出の機会が減っている。ゴミ出しは夫の役割。現在300m先にゴミステーションがあり、そこまで台車を押して、往復40分くらい時間をかけてゴミ出しをしている。

- ・時間8:00までなので、早いのではないかな。
- ・夫婦ともに足腰が弱くなった。転倒するようになると、現実的に不可能。
- ・プラゴミは軽いが、可燃ゴミは重くて300m持つていくのは大変。
- ・ゴミステーションが遠く300m歩けない。
- ・免許を返納したので運べない。台車で持つて行かないといけない。
- ・当番が1～2年に一回しか回ってこないため、やり方を忘れてしまう。
- ・まとめて出そうとして、忘れてしまうのではないかな。
- ・子供が来た時に頼めばよいと思っているが、ゴミを出す日と会わない。(子供が来る日とゴミを出す日が違ってしまう)
- ・子供が勤めていると出しには来られない。
- ・子供が近くに住んでいない。

事例Ⅱ

70代後半一人暮らしの男性。子供はいない。
認知症を発症。買い物には歩いてスーパーに行っている。料理をしない為、出来合いのものを多く購入。曜日がわからなくなっており、「曜日を間違えたので、今度出す」と言う。自宅内にはゴミ袋が溜まっている。分別は出来ていない。

- ・ゴミ袋が有料で買いたくないのではないかな。
- ・出来合いのものを買って食べるので、ゴミが多いのではないかな。
- ・ゴミカレンダーの分別内容が理解できていない。
- ・曜日がわからない。
- ・認知症のため、出すコンテナや袋を間違える。
- ・認知症を周りの方に伝えていない。
- ・一人で出来ない。周りの助けがない。相談する人がいない。
- ・近所でのつながりがなくなった。(コロナのため、お茶のみサロンや行事が中止になったため)
- ・近所の人に頼みづらい。(プライバシーが守られない)
- ・共和では独り暮らしが100人以上いる。

事例Ⅲ

70代夫婦と30代の娘で同居。3人には障がいがあり、生活使用にこだわりがある。ゴミステーションまで自転車でゴミ出しをしていた父親が体調を崩し、ゴミ出しが出来なくなった。娘の出勤時間がゴミ出しの時間に重なり、ゴミステーションまで出すことが出来ない。母親にはゴミ出しの理解が出来ない。

- ・娘の出勤時間に間に合わない。
- ・父親が自転車に乗れなくなり、今まで出来ていたことが、出来なくなった。
- ・ゴミを出す時、人と会いたくない。
- ・ヘルパーだとゴミが捨てられない。
- ・たすけあい事業家事支援を使っても、お金がかかる。時間帯が集中することで、協力員の担いづらさがある。(500円を100円にできたらよい)
- ・こだわりが強く、数十年間ゴミステーションに捨てたことがないと、習慣を変えられない。
- ・築地地区で40人に聞き取り調査をしたが、ゴミ出しに困っていないとの答えだった。

●方法・つながり

どうなったらいい？

○本人

・足の悪い方は前日の夕方に、玄関にゴミを出しておくようにする。高齢になったら登録制で、誰かに頼れるとよい。一緒にゴミ出しをしてくれる人がいたら、出せるのではないかな。ゴミの捨て方について個別に教わる。自分でも何とかできる方法を考える。

○家族、親族

・子供がいれば頼ってもいいのではないかな。子供に持ち帰ってもらい、子供の地区で捨てる。子供の会社に、勤務時間の協力を求める。

○近所

・近所の人に協力を求める。近所で関係づくりをして、仲間で気安くゴミ出しができる方法がもてるとよい。近所の人声が声かけて、ついでに出してあげる。隣近所で協力者を1人決めておき、ゴミが溜まっていたらその人に出してもらう。

○地区

・地区の中でゴミ出し係をつくる（役員に地区からお金が出る）。住んでいる地区の組長、民生委員へ相談する。地区の障がい者の把握と支援するため、住民台帳に『ゴミ出し』リストを加える。

○民生委員・関係機関

・住民では家の中の様子まで分からないので、民生委員や関係機関からのつながりがあったらよい。民生委員が間に入って、専門機関（地域包括）へ繋げる。誰かを探してもらう。

○ボランティア

・有料でお願いする。

○他の社会資源

・スーパーを巻きこむ。資源回収を利用する。

○ごみステーション、ルール

・ゴミ出しの時間を遅くする。朝のゴミ出しは難しいので、前日に出す。ルールを緩やかにできたらいい。いつ出してもいいようにする。ゴミの分別が簡素化されるとよい。分別方法を絵で見やすくしたらよい。ゴミの分別ができない人（高齢者・障がい者等）が、分別しなくて出せる袋（登録制）を使用できればよい。玄関前に出す（大阪の仕組み）。道の端に出す（東京の仕組み）。きれいにできるように袋に個人番号（名前）を書く。補助金でもう一つゴミステーションを作る（近い地区と遠い地区がある）。ゴミ当番が難しい世帯は当番から外す。ゴミ当番を大きく分かりやすく図で示す。

○その他

- ・ゴミからプライバシーが漏れることがあるので、出し方に工夫がいる。
- ・ゴミ当番や区費の支払いを拒否する人もいる。協力しあえる関係になればいい。
- ・アンケートによるニーズ調査はどうか。

●できること

自分たちができること（仕事の立場や個人として）

○本人

・普段から、出来ることは協力する。可燃と不燃だけは分けられるようにする。

○家族、親族

・違う地区の家族が持ち帰り、家族の住む地区にゴミを出す。

○近所

・近所での助け合いをする。可能な人に頼み（6～7軒・当番制）、決まった曜日に回る（玄関前にゴミ出ししておく）。

○共和寮

・共和寮入居者が、地域貢献でゴミ捨てのお手伝いに行く（玄関前に出しておけば可能）。

○関係機関

- ・分別だけはヘルパーさんに支援をしてもらう（ヘルパーは出しに行かれない）。
- ・たすけあい事業へ申請する（長野市社協へ）。

○ルール

- ・地区で時間帯をずらせるかを、組長、区長へ相談して捨てられるようにする。
- ・長野市では「ゴミ出しは8時まで」となっているが、柔軟な対応が出来るか？

○仕組み

- ・地区内での助け合いの仕組みを作る。
- ・地区内でのボランティア活動を立ち上げる（有償でも）。
- ・窮地で難しい状況の方を対象に、仕組みを考える
(登録制、分別しなくてよいゴミ袋)。
- ・一人に1人の担当ではなく、5人で1人を支える仕組みがある地域づくり。
- ・ゴミ出し、雪かきも含め、グループ作りで見守っていく仕組みができつつある。
- ・お互いに利用会員になることで、お互いに負担を少なくする仕組みも進みつつある。
- ・回収されなかったゴミは、環境整備係が移し替えて出す仕組みがある。
- ・ゴミステーションを増やす（均等の場所に設置する）。
- ・ゴミ収集車を、小回りの利く小さめの車にして、個人宅を回る。

第3回長野市地域包括支援センター運営協議会
地域包括支援センターの活動報告

地域包括支援センター名 インターコート藤

地域の特色 (区域内の人口や市街地、 山間地等)	更北(青木島・真島)地区：長野市の中心市街地と犀川を挟んで南側に位置。 青木島地区：人口 16174 人 高齢化率：25.7%(R6.4.1 現在) 田畑もみられる郊外の地区だが、丹波島橋で長野市街地に直結する地区として 区画整理が進み、宅地化が進行している。 真島地区：人口 2376 人 高齢化率：39.6%(R6.4.1 現在) 犀川・千曲川の両河川に挟まれ、かつては肥沃な堆積地を利用した農村地帯だ った。現在もりんごや桃の栽培を高齢者が行っている。
R5 年度の活動報告 ・総合相談件数 ・相談の困難ケース ・相談から見えてきた地域 の特徴 ・最近多い相談内容、傾 向 ・相談があった消費者被害 と対応	○相談件数：2301 件(延べ件数) 来所：116 件(延べ件数)・訪問：316 件(延べ 件数)・電話：1640 件(延べ件数)・メール、その他：229 件(延べ件数) ○困難ケース ・同居する娘二人の仲が悪く、主介護者である次女が母親に暴力を振るって いたケース ・同居の長女・長男が認知症の母親に暴力を振るっていたケース ・妻が寝たきりの夫に暴言暴力を振るっていたケース ・統合失調症の長女が同居状態の人工透析中の母親に暴力を振るっていたケ ース ・主介護者の長男が両親に暴言を吐いたり金銭搾取を行ったりしていたため、 見かねた次男が弁護士と相談し、長男に黙って両親を有料老人ホームに入所さ せたケース ・父親が同居の長男の生活費を払い、酒に酔った長男に暴力を振るわれてい たケース ・母親は定期的にインスリン投与が必要だが、同居の長男に脳梗塞後遺症があ り理解力が乏しく、意に沿わないと怒りだすため関係構築が困難だったケース ・独居女性で「家の中の物を盗られる、自宅の食品に毒を入れられる」等の被害 妄想があるケース ・被害妄想により近隣とトラブルになった男性のケース ・双極性障害による家庭内トラブルのケース ・独居で認知症による徘徊があるが、家族との連絡がなかなか取れないケース ・精神疾患のある独居の女性。近所の家への被害妄想による暴言や嫌がらせな どがみられ警察への通報や措置入院を繰り返しているケース ○相談から見えてきた地域の特徴 ・独居または高齢夫婦のみの世帯が多い。 ・単身・独居・親族の関りが少ない、身寄りのないケースが多い。 ・足がなく、高齢になっても運転を辞められない高齢者が多い。

R6年度12月末現在 ・総合相談件数 ・相談の困難ケース ・相談から見えてきた地域の特徴 ・最近多い相談内容、傾向 ・相談があった消費者被害と対応	相談件数(R6 年 12 月末時点)：1426 件(延べ件数) 来所：93 件(延べ件数) ・訪問：303 件(延べ件数)・電話：1006 件(延べ件数)・メール、その他：24 件(延べ件数) ○困難ケース ・介護者と担当 CM の折り合いが悪く、マネジメントにも支障が出てしまったため CM 交代を行ったケース ・介護者が 3 回にわたり母親に暴力を振るい、出血を伴うけがを負わせたケース ・同居状態の長女が母親の生活保護費を使い込み、母親が十分な介護サービスを利用できなかったケース ・内縁の夫と生活しているが、暴力を振るわれているケース ・夫が老健入所し妻が独居となったことで大声を出したり泣き叫んだりし、近所からの苦情があったケース ・子どもとの関係が悪く、本人も子も施設入所を望んでいるのに中々話が進まなかったケース。 ・広い自宅の一画を会社に貸しているが、その会社の社員から盗難の被害を受けているという妄想を訴えるケース ・認知機能低下が進んでいたことで、近所の川にごみを捨てることや自宅内が片付かないことが続き、近所からの苦情も出ていたが、本人と長女との関係性が悪く、中々話が進まなかったケース ○相談から見えてきた地域の特徴 ・独居であるために生活に不安を抱えるケースが多い。 ・妄想性障害(特に被害型)を有していると思われるケースが多い。 ○最近多い相談内容、傾向 ・物忘れが多くなってきたので、要介護認定を受けさせたい。 ・一人暮らしで自宅から離れたごみステーションへごみ捨てに行くのが大変。 ・介護サービスについて知りたい ・病院より通院患者・入院患者の支援をしてほしい。 ・本人または家族が精神疾患 ・独居、身内の関りが少ない、キーパーソンがいない
地域ケア会議について ・R5 年度のケア会議の回数と議題 ・ケア会議の出席者 ・会議の中でどのような意見が出たのか	■地域ネットワーク会議：3 回 ○1 回目「地域福祉について(社協講義)・青木島地区懇談会(優先課題：サロン・交流の場)」 出席者：民生委員、福祉推進員、住民自治協役員、地域福祉ワーカー、たすけあい Co、福祉事務所、行政、包括職員 ○2 回目「地域福祉について・真島地区懇談会(優先課題：買い物)」 出席者：民生委員、福祉推進員、住民自治協役員、地域福祉ワーカー、たすけあい Co、福祉事務所、行政、包括職員 ○3 回目「地区懇談会で挙げた課題の深堀・その他地区課題の検討」 出席者：民生委員、たすけあい Co、市、管内ケアマネ、包括職員

	会議の中で出た意見： ・サロン活動は充実しているとの認識だが、公民館が遠くて参加できないとの声もあり、移動支援の検討も必要。 ・地区役員の意向で、サロンや体操を開催していない地域もある。 ・サロン活動の周知が課題。月 1 回の回覧では効果が薄い。参加してほしい対象者に合わせ、周知方法が必要。 ・サロン活動などを担う・支援する人材の確保が課題。老人福祉センターや作新大学(公民館)と連携するアイデアあり。 ・生協のカタログから注文するのが大変。 ・買い物に自分の足で行く手段がない。ヘルパーを使えば買い物はできるが、自分の目で見て選びたい人に対する支援がない。 ・宅配サービスや移動販売などの新たな社会資源はあるが、自分で品物を選びたい、移動販売車まで歩けない等の課題があり、活用につながらない事例もある。 ■個別ケア会議：2 回 ○1 回目「夫の老健入所により独居となった認知症の妻の生活と近隣との関係性。今後の夫婦の生活について」 出席者：民生委員、ケアマネジャー、サービス事業所、包括職員 会議の中で出た意見：同居が難しいためそれぞれにキーパーソンを決める必要がある。両方の親族と関係者を集めて、現状の説明と理解を得る。妻のサービス状況を確認しながら継続する。 ○2 回目「次女の介護への抵抗が目立つようになり、次女が対応に苦慮している。」 出席者：包括職員、ケアマネジャー 陰部搔痒感について訪問看護師に相談する。ショートステイを利用し、次女は休息をとる。次女は長女との接触を避け、ストレスを溜めない。
地域ケア会議について ・R6年度12月末現在の回数と議題 ・ケア会議の出席者 ・会議の中でどのような意見が出たのか	■地域ネットワーク会議：2 回 ○1 回目「更北地区支え合いネット今年度の取り組み方針について」 出席者：住民自治協役員、地域福祉ワーカー、たすけあい Co、行政、包括職員 ○2 回目「地区懇談会の進め方について」 出席者：住民自治協役員、地域福祉ワーカー、たすけあい Co、行政、包括職員 会議の中で出た意見： ・懇談会は民生児童委員と福祉推進員を中心に参集し開催していく ・地域のはつらつ体操等に出向き、住民に包括の存在を知ってもらえるようになったところで、徐々に地域の困りごと等を聞き出していく。 ・住民からの意見の集め方については、はつらつ体操の場で参加者から意見を聞く、地域住民と話し合いの場を持つなど、今後に向けて検討する必要がある。 ・地域の福祉活動の担い手がなかなか確保できない。地域たすけあい事業の協力会員募集のチラシを配布しても応募者がいない。 ・福祉推進員(92 名)の役割について。コロナ禍で地域活動が衰退したことや、前任者からきちんと引継が行われていないこと、仕事も持ちながらの活動であ

	ることなどが原因で、十分に動けていない推進員が多いため、役割について再検討が必要。 ■個別ケア会議：1回 「介護認定（要支援1）を受けて、本人の今後の在宅生活での支援および見守りについて」 出席者：家族、民生委員、包括職員 自身で困難になっている食事、買い物、掃除などヘルパーに手伝ってもらい、配食サービスを活用することで生活面を整えていく。本人の見守りを主介護者の長女だけでなく、ヘルパーや地域の民生委員、包括など連携しながら役割分担することで、長女の負担を軽減していく。
地域包括支援センターの広報について R5 年度 R6 年度12月末現在まで ・どのような取り組みをしているか 実際の広報用紙またはチラシがあれば添付してください。	・民協定例会への参加 ・民生委員との同行訪問により、地域の高齢者支援の相談窓口として理解してもらっている。 ・出前講座、はつらつ体操など地域の活動に参加した際にチラシを配布している。